学校番号	３００２

令和３年度　農業科

教科	農業	科目	(学)ヒトと動物	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ヒトが動物とどのように共生し暮らしを豊かにしていくのかをシームレスに総合的に学習します。人類はその歴史の中で動物のとの関係を多様に発展させてきました。食として狩猟の対象であった動物は、その一部は家畜として飼育の対象となり産業として現在もなお発展をとげています。そして、ヒトは産業を支える使役としてもあらゆる分野で動物を活用し、またヒトの社会を支える動物介在はこれから更に多様に進化し発展していく分野として期待されていいます。そのために、ヒトと動物の両方を理解し双方からの視点を大切にして、社会を発展させるためのヒトと動物の関係を学術的に学習します。１年次はその概論、２・３年次はその各論を学習します。

2　学習の到達目標

〇ヒトの暮らしを豊かにしていくために動物をどのように活用していくのかを総合的に理解する。
〇ヒトと動物の関係についての歴史を理解する。
〇動物の行動学と動物観、ヒトとの関わりについて理解する。
〇産業動物・社会動物・展示動物・実験動物について理解する。
〇社会の発展と動物介在、動物との共生について理解する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	ヒトと動物の関係について興味・関心を持ち、主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。	動物をどのように活用していくかを学術的に考えることができる。また、ヒトの暮らしを豊かにするための動物の活用についての課題を見つけ解決策を考えることができる。	産業動物・社会動物・展示動物・実験動物等について理解している。また、社会の発展と動物介、動物のとの共生について理解している。	ヒトと動物の関係の歴史について基礎的な知識を身に付けている。また、動物の行動学と動物観、ヒトとの関わりについて総合的に理解している。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述 レポート 発表（発言）	学習状況の観察 発表 レポート 自己評価・相互評価 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 レポート 自己評価 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 レポート 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	ヒトと動物の関係学 家畜化の歴史	○ヒトの進化、社会の歴史 ○ヒトの行動学とライフスタイル ○動物の関わりの歴史 ○動物との共生 ○農業のはじまり	○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○	a:ヒトと動物の関係について、関心を持ち、主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。 b:ヒトと動物との関わりと共生について、その課題と発展について考えることができる。 c:動物との関わりの歴史について理解している。 d:ヒトと動物の関係学について、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 発表 定期考査
2学期	動物の活用の歴史 動物の行動と社会 動物介在	○産業動物 ○社会動物 ○展示動物 ○実験動物 ○動物の生態と社会 ○動物介在 ○アニマルアシスト ○アニマルヒューマンボンド	 ○ ○ 	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 動物の活用の歴史について、関心を持ち、主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。 b:動物の行動と社会を理解し、動物介在とヒトの社会の発展について考え、表現することができる。 c:様々な家畜の形態について、またそれらとヒトとの関係について理解している。 d:動物の活用の歴史について、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 発表 定期考査
3学期	社会と動物の活用 動物法令法規	○心理学と動物 ○社会の発展と動物 ○動物法令法規	○ 	 ○ 	 ○ 	○ ○	a: 社会と動物の活用について、関心を持ち、主体的に実践的に学ぶ態度を身に付けている。 b:ヒトの心理と行動学の観点から、どのような動物との関わりが必要なのか、その課題と発展について考え、表現することができる。 c:社会の発展と動物との関わりについて理解している。 d:動物の法令法規について、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 発表 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。